

第17回 全国SR経営労務センター交流会の報告

出席者 会長 日笠みどり

副会長 西村 篤志

第17回全国SR経営労務センター交流会が、10月18日に北海道札幌市のグランドメルキュール札幌で行われ、会長、副会長の2名で参加してきました。

13時からの開催で、まず事前に回答していたアンケートに従い、2つの分科会に分かれて、各県の取組について発表がありました。

その後、14時30分から16時までの全体会議では各分科会からの報告と世話人会の活動・会計報告が行われ、また各ブロックからの次期世話人の選出、次の開催地の発表と続きました。

【分科会1 電子申請の推進について】出席:西村副会長

議題等は、1. 電子申請の対応について、2. SR 労働保険事務組合（以下、「SR」という。）のセキュリティについて、3. F&M の紹介についてでした。

まず、1については、SR は他の労働保険事務組合（以下、「組合」という。）とは異なり、会員社労士が労働保険関係書類の申請をする特徴があり、通常の組合の場合、電子申請を行う場合、会長の電子認証が必要など、SR は労働局に「利用届」



を届出することにより、各会員社労士が電子申請を行うことが可能となっています。但し、全国のSRの利用届の状況を確認すると、全ての労働局で利用届が認められているわけではなく、各都道府県の労働局で対応が分かれています。地方自治体ではないので、本来であれば全国同対応が望まれるところだと感じました。また、こういった申請を各SRが電子申請で認めているかは、各SRによって異なっていました。またSRのセキュリティについては、昨年度の(株)MKシステムがランサムウェアに感染した件が取り上げられ、各SRのセキュリティ対策の重要性について議論されました。現在各SRは(株)MKシステムのシステムを使用している場合が多いですが、(株)F & Mのシステムの紹介がありました。

【分科会2 滞納処理について】出席:日笠会長

第2分科会では、座長が愛知中央の小寺会長進行のもと、43 センターが参加しました。

1. 労働保険料の納入方法 2. 労働保険料の滞納を確認した場合の事務局の対応及び事業

主の対応 3. 対応をするうえで、規程や対応マニュアル等の有無 4. 規程等で対応する
うえでの課題 5. 今後、規程マニュアル等を整備または新規作成する予定の有無、とい
った5つの議題について発表がありました。前もって各 SR より回答票を提出していたため、
議事は比較的スムーズに進み、1については、振込みが主という1センター以外は全て口座
振替が主でした。2については、滞納が全くないというセンターも6ありました。加入時に
会長又は常務理事による面接を実施していることも、スムーズな納付につながるという意見
も出て、岡山県も同様の面接を行っており、意味があると確認できました。3の規程につい
ては、25センターが規程なしとのことでした。4の規程等で対応する場合の課題として、規
程を定めているのは比較的規模の大きなセンターが多いとのことでしたが、大阪 SR 経営労
務センターでは規程に従って対応しようとしても、2期連続で滞納、また納付誓約書が守れ
ない場合は、委託解除手続きを行う、となっていて実際には運用が難しいという意見でし
た。結局顧問社労士が個別に対応し、SR の事務局とも連携しながら電話、FAX、訪問等で対
応していくしかない、といった感想をもちました。ただ、5で今後規程等を新規作成する予
定としては無しと回答したセンターが36あり、中々規程通りにいかない現状があると感じ
ました。岡山 SR も、このまま規程なしでよいのか、今後作成の有無について検討する必要
があるのではないかと、分科会に参加してみて改めて感じたところです。

【全体会議】

開催地の会長である山口美
津男氏の挨拶に始まり、大野
連合会会長はじめ9名の来賓
の方々の紹介がされました。
大野連合会会長から、いま社
会問題になっているフリーラ
ンスについて社労士としてど
のような対応をすべきか議論
を始めているという話があり
ました。その後2つの分科会
からの報告、続いて地域ブロ
ックごとに世話人会の活動報



告と会計報告が行われ、承認を受けました。今後は、この報告を2年間、中四国地域は岡山
SR が担っていくことになります。最後の質問の場面で、フリーランスの特別加入の手続き
をやはり労働・社会保険、社会保障の専門家である社労士がもっとできることがあるのでは
ないか、ということで、連合会の SR 特別委員会とも連携しながら、検討を進めていくとい
うことでした。今後の大きな流れが見込まれるところです。

【各ブロックの次期世話人について】

全体会議の場で、地域ごとに分かれ、次年度からの世話人の選出が行われました。

中四国ブロックの世話人には、満場一致で岡山県が選出され、全国交流会終了後から、愛媛SRから岡山SRへと担当が移り、まず2年間その役割を担うこととなりました。

【次回開催地について】

代表世話人から推薦を受けた大阪SR経営労務センターが、拍手多数により令和8年の全国SR交流会の大阪での開催が決定しました。会長の島谷氏が2年後に向け挨拶をされました。

【講演会】

国立アイヌ民族博物館館長 佐々木史郎氏による「アイヌの歴史と文化の正しい理解を促進するために一国立アイヌ民族博物館の役割」について約1時間の講演がありました。

存立の危機にある先住民族アイヌの文化を復興・発展させる目的の国立施設で、総工費約200億円をかけて、北海道白老町ポロト湖畔の約10ヘクタールにつくられました。



先住民族アイヌの歴史や文化を主題とした国立アイヌ民族博物館や、伝統的なコタン（集落）を再現した国立民族共生公園、大学などで保管されていたアイヌ民族の遺骨を慰霊する施設の三つで構成されているそうです。いつか尋ねてみたいと思いました。

【懇親会】

アイヌ文化の保存会の方々によるアイヌ舞踊を鑑賞しました。

アイヌの口琴の「ムックル」が参加者に配られ鳴らし方の指導を受けたりと、北海道の地ならではのもてなしを受け、各地からの参加者と交流を深めました。



◇なお、全体会議、分科会の内容の詳細につきましては、別途会員専用ページに掲載している「交流会議事録」をご参照ください。

以上